

# Fontaine

vol. 31

発行日 2011年3月25日  
発行/岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

## 岸和田市に 飛び込んで

大阪府立和泉高等学校  
校長

中原 徹



私は、現在和泉高等学校(和泉高校)の校長を務めていますが、まだ1年も経っていません。

昨年の4月から、民間人校長として和泉高校の校長に就任しました。校長に就任する前の約10年間は、米国ロサンゼルスで弁護士をしていました。

私は、東京で生まれ、幼少の頃から横浜市で育ちました。横浜といっても横須賀市との市境の金沢区というところですよ。鎌倉時代に北条実時が武家の文庫として建立した「金沢文庫」や浮世絵師の歌川広重の「金沢八景」が有名な町です。岸和田市はおろか、大阪、いや、西日本に住んだ経験もないまま、この岸和田市にお世話になることになりました。

岸和田市を訪れたことがない人は、岸和田市にどのような印象を抱くでしょうか？

私の中では「だんじり祭り」「岸和田少年愚連隊」「清原和博さん(野球)」が頭に浮かびましたが、それ以外の知識は恥ずかしながらありませんでした。大阪市内の人からは「ディープ・サウスに行くんか」などと言われましたがよく意味は分かりませんでした。実際に岸和田市に通わせていただきましたが、実は自分の故郷とよく似ていて、初めから過ごしやすい土地であったのです。私の故郷は、海や山に囲まれ、幼稚園のころには歩いて砂浜に行き、スコ

ップを動かせば無料で潮干狩りができました。近所の八百屋さん、漁師さん、酒屋さん、床屋さんが知り合いで、悪戯をした私ら子供達を怒鳴りつけるかと思えば、余った野菜や魚介類を「おすそ分け」してくれたりもしました。そんな空気を同じ漁師町であるこの岸和田にも感じたのです。

ただし、「だんじり祭り」だけは別格です。昨年、初めてお祭りを拝見させていただきました。祭り自体の迫力もさることながら、地域で子供からお年寄りまでが祭りのために団結したり、祭りのために茶髪を黒く染め直す女の子や、祭りのためにクラブ活動を止める男の子など、他では見られない強い思いが込められています。「だんじり祭り」については、たった1回拝見しただけの者が簡単に評価してはいけないう奥深さがあると感じています。大袈裟な言い方かも知れませんが、町の「神様」のようです。岸和田城と「だんじり」の組み合わせはそうした厳かなものの存在すらうかがわせます。

こうした力強い「伝統」を持つ岸和田市ですが、一方で海外の窓口である関西国際空港が海の向こうに浮かんでいます。「伝統」と「世界への窓口」。こうしたふたつの側面を持つ岸和田市が、今後どのように発展していくのか……刺激的な町に私は来ました。



## 泉州タマネギの 基を開いた人

### 「坂口平三郎」

坂口平三郎は、文久元年(1861)2月に、和泉国南郡土生新田(現在の岸和田市土生町)の農家に生まれました。今年で生誕150年になります。

当時は幕末の動乱期で、昨年のNHKの大河ドラマなどで皆さんよくご存知の、坂本龍馬らが薩長連合を策して活動していた頃です。寺田屋騒動の起こる一年前です。

平三郎は、現在岸和田市立葛城中学校のある八幡山の南側に、自費を投じて「東臯園」と称する私立植物試験場を開設し(1877)農事改良を始めました。

明治12年(1879)9月、19歳のとき神戸元町の西洋料理店「外国亭」に入って、初めてタマネギに出会いました。店主にタマネギを持ってきたアメリカ人の名前を聞き、神戸外国人居留地を探し回って、外国商館にいたアメリカ人を見つけ、やや甲高の黄色のタマネギ3個を譲ってもらいました(品種はイエローダンパースだっただろうと考えられています)。分けてもらったのは種子ではなく、食用としてアメリカから持ってきていたタマネギでした。

3個のタマネギ(母球)を持ち帰った平三郎は、東臯園で苦労を重ねて採種に成功し、栽培試験をおこない、2年後の明治14年栽培法を成立させました。秋まきタマネギの創始です。明治14年は、国に農商務省が設置された年ですが、平三郎はこの年21歳の若さで泉南郡勸業委員に選出されました。土生郷村で実際にタマネギ栽培が始まったのもこの年の秋でした。平三郎はその後も農家に栽培法を指導し、自ら種子を無料配布して熱心に耕作を奨励して回りました。昭和の初期には泉南のタマネギ栽培面積は1,800ヘクタールに達しました。

タマネギの歴史は古く、紀元前300年以前の古代エジプトの王の墓の壁画に描かれているそ

うですが、わが国では意外に新しい作物です。明治4年に北海道開拓使がアメリカから種子を取りよせ、札幌の郊外で試作したのが最初とされており(北海道は春まき)、平三郎が泉州タマネギの基をひらいたのはこれより少し遅れてはいますが、水田の裏作として農家に多大な現金収入の道を開いた功績は、はかり知れないものがあります。

平三郎は、タマネギの他にもキャベツやチーゼルなども導入しています。

平三郎は、明治30年3月大阪市に出張中疫病で倒れ、宿泊先で37歳の生涯を閉じました。

昭和7年に土生郷村農会によって、府道岸和田港塔原線沿いの土生新田の入り口に、平三郎の功德をたたえる頌徳碑が建設されています。当時の大阪毎日新聞の本山彦一社長の篆額による立派な石碑です。車を止めて一度碑文を読んでみてください。



頌徳碑

今年の5月には、平三郎の頃のタマネギは無理ですが、平三郎の後に続いた篤農家によって改良され、保存されてきた今井早生や貝塚早生などのタマネギを探し出して、「やわらかくて甘い」泉州タマネギを入れた「昔おいしかった、すき焼き」を大勢集まって試食したいと思っています。

【参考】「泉州玉葱と坂口平三郎」南野純子著(平三郎のお孫さん)  
「なにわ大阪の伝統野菜」なにわ特産物食文化研究会編著

# 歴史再発見 ご存知ですか

vol.4

副会長 行 龍男

岸和田に人が集い、元気だった明治・大正・昭和初期の岸和田の記憶をよみがえさせる身近な近代遺産を探してみましょう。

私たちの先輩の歩んだ道を振り返ることにより、岸和田の今後を考える指針になればと思います。

## 1】窯業会社とトロッコ道



写真1

戦前岸和田に西日本有数の煉瓦製造会社が2社あり、創業明治20年の岸和田煉瓦株式会社と創業明治39年の大阪窯業株式会社

で、西日本の需要のほとんどをまかなうまでに成長しました。

煉瓦の原料となる粘土は、沼野村・岸和田村・加守村・八木村などの田より採集され、冬の農閑期に田の床土の粘土を取りトロッコに乗せ工場まで運ば



写真2

れきました。その結果、床土粘土と共に、貴重な埋蔵遺跡が破壊された可能性があります。大阪窯業へのト

ロッコ道が南海線をくぐった跡が（写真1）です。岸和田煉瓦へのトロッコ道の跡地が（写真2）です。是非一度往時を偲び廃線跡を歩いてみませんか。

## 2】戦前の金融機関

紀州街道周辺

岸和田の近代の商業・工業を支えた金融機関として、紀州街道沿いに銀行がひしめいていました。

北から寺田甚与茂家の機関銀行としての「和泉銀行本店」が大正11年に設立されました。



写真4

写真4の建物は、和泉銀行本店として昭和8年に建設され、現在国の登録有形文化財に指定されています。

四十三銀行は、本店は和歌山市にあり県外最初の支店で、大正9年から営業開始しています。（現成協信用組合）

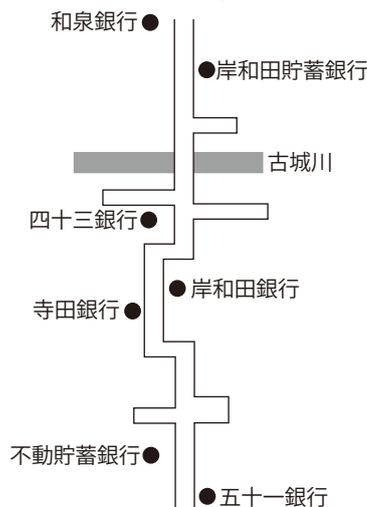


写真5

寺田銀行は、寺田利吉家機関銀行で、明治40年から営業開始しています。（現市立自然資料館地）

五十一年銀行は、前身を明治11年（1878）設立の第五十一国立銀行（写真5）です。その後、新設・統廃合等で、昭和11年頃は岸和田に本店を置く銀行は、五十一年・寺田・岸和田・和泉銀行が機能していましたが、国の施策により、昭和15年に岸和田に本店のある4行が合併し、阪南銀行となり、昭和20年に住友銀行に合併されました。

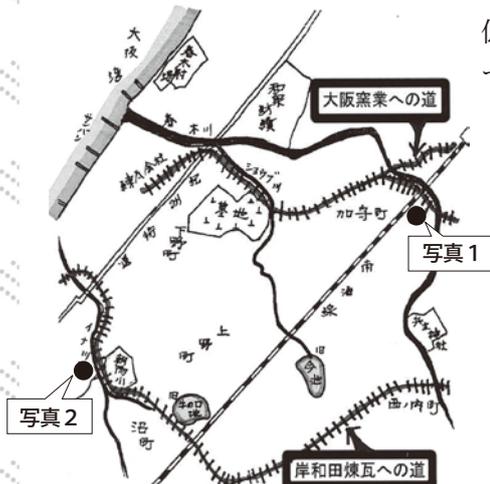


写真3  
昭和10年頃  
トロッコ道  
小垣広次氏作画

# Cultural Hot Spot In Kishiwada

## 地域でも珍しい 男声合唱グループ ブーン・メイツ

いわゆる「ママさんコーラス」の団体は全国的にも多いが、珍しいのが男性のみのコーラスグループ。そんな中、自泉会館を主な練習場所とするのが男声合唱団の「ブーン・メイツ」（鎌木武男団長）だ。今回は混声合唱団「コール・ルヴォワール」の団長であり、ブーン・メイツのメンバーでもある岡崎幹夫さんに、活動内容や男声合唱の魅力などについてお話を伺った。



岡崎幹夫さん

### 男性メンバーは30人

コール・ルヴォワールは戦後間もない昭和20年代、歌を趣味にした人たちが集まり、グループを組んだのが始まり。その後、一旦解散するものの昭和60年に再結成。最初の設立から参加しているメンバーもいて、最高齢者は80代に達しているという。

現在のメンバーは全体で70人。内訳は女性が40人で男性が30人。「男が30人もいるんだからということで、平成11年に結成したのがブーン・メイツです」と岡崎さんは設立の経緯を話してくれた。

練習は毎月2回、日曜日に行われ、午前中は女声グループの「たんとフィオーレ」（阪口年子団長）とブーン・メイツが各々練習をし、午後からはコール・ルヴォワールの全体練習。発表の場は定期演奏会や病院への慰問など。

「昨年は9月12日に阪南市や岸和田市にある、ほかの男声合唱グループにも声をかけ、交流会を開きました」と岡崎さん。約50人の合唱好きが集まり、好評を博したという。



2010年11月 第25回泉南地区合唱フェスティバル

### 独特の響きが 男声合唱の魅力

岡崎さん自身の入団は平成14年だが、高校、大学、職場でも合唱を行い経験は豊富。退職を機にコール・ルヴォワール、そしてブーン・メイツに参加。男声合唱について「混声や女声とは違う響きがあります。そして、人の声を持つ温かさと柔らかさ。初めて男声合唱を聞く人たちは、その迫力に驚かれますね」と魅力を語り、そのほかにも様々な職業、いろんな年代との交流が楽しいと話す。

今後は地域に根ざした活動を行い、広げていきたいと話す岡崎さん。30人という人数については「ちょうどいい数ですが、パートの配置や常時、演奏会などに出られる人数を考えると、もう少し多いほうがいいですね」との希望。参加については年齢や住所などの条件もないので、「皆で歌を唄いたい」「男声合唱の魅力を知りたい」という人は是非。



2009年5月 コール・ルヴォワール 第12回定期演奏会



## もっと岸和田を 知りたい



理事  
藤田 保平

今から28年前、岸和田市制施行60周年記念事業として「岸和田風物百選」という画文集が発刊された。

昭和57年4月、新聞・広報誌に、岸和田の自然の景観・民族芸能・文化財などを再発見し後世に伝えたいとの思いで、絵と文を市民参加で作ると発表。岸和田市風物百選選定委員会が構成され、作品を公募、407点の作品が集まった。そこで知名度・歴史性・学術性・鑑賞性・記録の必要性について検討がなされ、最終的に絵と文が一对になった100点を決定。ここに「岸和田風物百選」が発行された。時に昭和58年11月1日のことである。立派な装丁の重厚な本である。市関係の学校・図書館・公民館などへ配置し、一般市民へも頒布したが瞬く間に完売したと聞いた。それから3年ほど経って、この本を参考に現地を訪ねてみたが、探し当てる事が出来ない所があるとの声が私の所属している「岸和田市文化連絡協議会」（岸文連）に聞こえてきた。これは、そういう方々と一緒に歩くほかないと考え、岸文連文化サロンの行事として「岸和田風物百選を歩く会」と称し、市広報やミニコミ紙で参加者を募り、百選の文章とは別に資料集とガイドマップを作り市内各所を歩いた。時には50人もの参加者があって、毎回概ね好評で、これなら百選全部歩けると意欲を燃やしていたが、予定の半分ぐらいで私がアキレス腱断裂の思わぬ怪我で以後は続かなかった。ところが今年、ふぉんてーぬ1月号から、「歩いて岸和田の良さを知る岸和田慢歩」のコーナーが出来、第一歩が踏み出された。新しい目線で、わがふるさと岸和田を眺め直そうと思う。

最近身体に対する関心が高まり情報が豊富です。筋肉の衰えが姿勢を悪くし、老化の第一歩と言われ、クイック・エクササイズからスロー・エクササイズ等種々言われています。

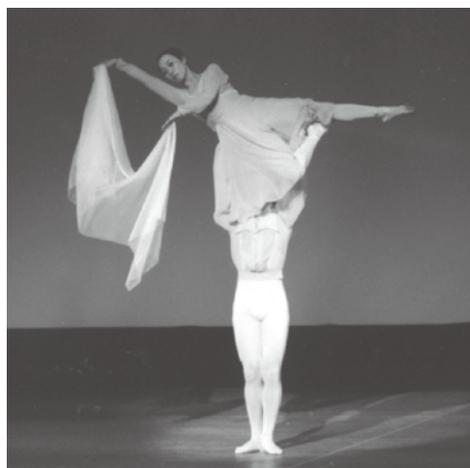
20世紀代はエネルギーを主体とした持久力、筋力アップする事で差が生じると言われ、有酸素運動に力を注いだのです。今世紀に入ってこの考え方のみでは無いことが問われ、パワー、エネルギーの量的能力からクオリティーな能力に注目され始めました。

そこで私のしているバレエ（クラシック）が出てきます。バレエの基本レッスンはスポーツ系の筋肉を付けるのとは違いがあります。しなやかさと強さ、それに細い筋肉に尚美しく付ける事を要求され、これが最も重要視されて作られているのです。それには側面筋ではなく内面筋を使いながらレッスンを積み重ねるのです。つまり量ではなく質なのです。上質の筋肉を付ける為には理論的な指導は勿論ですが個人の普段の生活面、精神性の影響が大である事は言う迄もありません。このバレエレッスンがスポーツ界、フィギュア、新体操に必要視され始めました。外国では当然の事で遅ればせ乍ら日本でも導入されていますので将来が楽しみです。TVの放映でフィギュアの真央ちゃんが「今年はバレエレッスンを励みます」の言葉が代表しているでしょう。（注：彼女は、わりと早い時期から習得していました。）

私はこの頃、特にバレエを続けられている環境に感謝の思いがふくらんで参ります。バレエやエクササイズでお役に立てればとも思います。バレエも進歩します。後進達に正しく伝えていく為の勉強は永遠に必要で、続けられる限りバレエ巡礼の旅を楽しみつつ歩んでみたいと思うこの頃です。

## バレエ巡礼の旅

理事  
平瀬 有里



昭和60年頃の公演にて

# 岸和田慢歩

## 第2回

### 久米田南五踏切から久米田池まで

理事 藤田保平・齒黒猛夫

奈良時代に活躍した人物、橘諸兄と聖武天皇の皇后である光明皇后。今回はそんな2人にまつわる遺跡が残されている「牛滝街道（久米田道）」の一部を紹介します。

スタート地点はJR下松駅のすぐ北、額原町内にある「久米田南五踏切」。これを山側に渡って路地を右折し、道なりに歩くと「旧熊野街道」（通称：小栗街道、現：府道大阪和泉南線）に到着。北側にある信号を渡って戻ってくると道端に道標がポツンと傾いて立っています。

そのまま再び路地を歩き広い道に出ると、しばらくは府営住宅などが並ぶなだらかな坂道が続き、やがて今回の注目スポット「古墳公園」に到着です。園内には、かつて「赤山」と呼ばれていた「風吹山古墳」「無名塚古墳」「貝吹山古墳（諸兄塚）」などが並び、中学の敷地内にも「女郎塚」と呼ばれる古墳が存在し

ます。また、公園を出て久米田池のほうに進み、交差点を左に曲がってしばらく歩くと、「光明塚」と呼ばれる古墳が。光明塚古墳からもとの交差点に戻って左に曲がりしばらく歩くと左手に「石造五輪塔」が並んでいます。

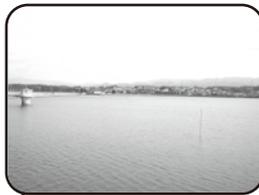
ゴール地点は「久米田池」と「久米田寺」。ただ発掘調査の結果、これらの古墳は4世紀後半から5世紀前半に築造されたと考えられ、奈良時代の人物とは直接関係ないともいわれています。それではなぜ、橘諸兄や光明皇后のいわれが残っているのか？

これからは桜の花も満開の季節。花見がてらに訪ねてみて、思いをめぐらせるのも楽しいのですが、せっかくの遺跡の保存状況があまりよくないのは残念といわざるをえません。

天平10(738)年に僧基が久米田池の管理のため建立したとされる高野山真言宗「龍臥山久米田寺」。戦国時代には久米田合戦などでほぼ焼失したが、永保2(1674)年に復興している。



久米田池



大阪最大の人工ため池とされる久米田池。久米田寺同様、僧基によって開削指導され、そのときのスポンサーが橘諸兄だという説もある。



久米田寺の端に立つ「石造五輪塔」。3基のうち中央が聖武天皇、向かって左が光明皇后、右が亀山天皇の墓と伝えられているが、もちろん事実ではなく、その様式から鎌倉時代のもものと推測されている。

久米田寺の敷地内にある「光明塚古墳」。光明皇后の御遺髪と御爪が埋葬されているとか。



久米田中学の敷地内にある「女郎塚」。墳上墓、墳上塚と呼ばれているもので、堺北之荘高須町、高須稲荷門前の珠名長者が抱えていた妓婦、地獄太夫の墓と伝えられている。



環濠を持った前方後円墳である「貝吹山古墳」。かつては橘諸兄の墓と伝えられ「諸兄塚」と呼ばれたが、発掘調査の結果では古墳時代前期の築造とされている。



貝吹山古墳(諸兄塚)

発掘調査のときに見つかった円筒埴輪の模型が並べられている「無名塚古墳」。



風吹山古墳

久米田中学

女郎塚

府営住宅



階段を使い頂上に登ることも可能で、発掘調査では多くの副葬品が見つかった「風吹山古墳」。

熊野街道沿いにポツンと立つ道標には鳥居と「田山稲荷神社」の文字。



道標

### 豆知識

**【光明皇后(701年~760年)】**  
藤原不比等の娘で聖武天皇の皇后。貧しい人に施しをするための施設「悲田院」などを設置するなどの慈善事業を積極的に行ったことでも有名。また、興福寺の阿修羅像は皇后がモデルともいわれている。



古墳公園の全景。

碁石山古墳

浄行寺社

府道大阪和泉南線(小栗街道)



路地沿い並ぶ立派な門構えと土塀の屋敷。



線路沿いの道を曲がらずに、少し先の道を右折。

下松駅

### 【前回のコースを辿ってみて】

- かじやまの道標はどれだけの時を経ているのだろう。道標を目にした多くの人たちと、少し歴史を共有できたような気がした。(Mさん)
- 50年以上慣れ親しんだ道や建物を、「ふぉんてーぬ」を片手に歩いてみた。道標に初めて気付いたり、旧泉銀が名建築家の手によるものなのかと見上げたり、新発見であった。(Kさん)

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

## 第23回「フレッシュコンサート」 ～秋に思いをはせて～

平成22年12月26日(日)に、音楽を学びプロフェッショナルとして歩み始めた新人による演奏会を、自泉会館ホールで実施し、58名の入場者がありました。



出演された皆さん

### 〈皆さんの声〉

- 若く才能溢れる方々が、こういったホールで演奏する機会を得られることは、今後の更なる飛躍をしていかれる上で、とても意義深いことだと思います。
- いつの日か、弾いてみたいです。
- 後ろの席だったので、弾いている人が見えなかったです。
- 楽しい時間が過ごせました。

## 音楽世界旅 VOL.4 アルゼンチン編

平成23年1月29日(土)にレクチャー・コンサート「アルゼンチン・タンゴの華 バンドネオンの真髄を聴く」を実施し、115名の入場者があり、活気溢れるコンサートになりました。また、29日と30日の両日に実施した「アルゼンチンを感じるコーナー」の展示には、148名の入場者がありました。



出演された皆さん

### 〈皆さんの声〉

- このシリーズを毎回楽しみにしています。世界の音楽を身近に感じることができて、本当に良い企画です。
- 50年来のタンゴファンにとって、こんなに身近で初めての体験。素晴らしい一言。
- 満足、満足、大満足でした！若かりし頃を思い出し、感激しました。
- 吹田市から来た甲斐がありました。音響が良く素晴らしい演奏、解説も分かり易く全て申し分ありませんでした。

## 会員対象事業 「勾玉作り」

平成23年2月23日(水)に、自泉会館展示室を使い、岸和田市教育委員会の山岡邦章氏に講師をお願いし、和気あいあいとした雰囲気の中で、オリジナル作品を作りました。



チャレンジする参加者

### 〈皆さんの声〉

- 原石を形に仕上げていくうちに、原石本来の色が出ると感動しました。
- 参加者は少なかったけれど、先生から詳しく指導を受けることが出来たので、楽しい充実した時間を過ごせました。
- 時間の延長を気にしながらも、最後には皆んな自画自賛！

## 音楽世界旅 VOL.5 インドネシア編

平成23年3月12日(土)にレクチャー・コンサート「バリ・ガムラン その華麗な音の磁場へ」を実施し、66名の入場者がありました。また、12日と13日の両日に実施した「インドネシアを感じるコーナー」の展示には、101名の入場者がありました。



出演された皆さん

### 〈皆さんの声〉

- 民族楽器の響きで身体の底まで癒される、そんな気持ちになるコンサートでした。
- 珍しい楽器、素晴らしい音色、異国文化をたっぷり楽しませていただきました。
- 民族楽器や踊りの素晴らしさに感動しました。西岡先生のレクチャー付でとても分かり易く楽しかったです。
- 以前、バリ島旅行で見たガムランや踊りを思い出し、懐かしく感じました。

## 平成23年度 定時総会開催

平成23年度定時総会を下記の要領で開催します。

日 時：平成23年6月4日(土) 午後2時より  
 場 所：岸和田市立自泉会館

内容 第1部 総 会  
 ①平成22年度事業・決算報告  
 ②平成23年度事業計画・予算案審議  
 ③役員改選

第2部 懇親会&アトラクション  
 ①ブーン・メイツによる合唱  
 ②昭和初期の蓄音機によるレコード鑑賞

平成23年度(平成23年4月～平成24年3月)

## 会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的にしています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円  
 家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円  
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。  
 郵便振込の場合は  
 口座番号 00970—9—28145  
 加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。  
 TEL/FAX 072-437-3801  
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 第24回自泉フレッシュコンサート ～春風にさそわれて～

日 時：平成23年4月24日(日)午後2時開演

会 場：岸和田市立自泉会館ホール

出演者：竹本 詩 (ピアノ)  
 大多 純子(ソプラノ)  
 真田 知香子(ソプラノ)  
 山上 祐未子(ソプラノ)

入場料：一般前売1,200円(当日200増)  
 会員前売1,000円(当日200増)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで  
 TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 文化情報

### 「第62回岸和田市市展」への出品を募集いたします。

自作未発表のものに限ります。

詳しくはマドカホールにて配布中の募集要領をご覧ください。

資 格 平成8年4月1日以前に生まれた人。

出 品 料 500円

搬入場所 マドカホール 展示場(荒木町1丁目)

会 期	部 門	体 裁	搬入日時
第1期	洋画	額装 (ガラス不可)	5月10日(火)～ 11日(水) 午後1時～7時
第2期	染織 陶芸	額装・屏風・着物・タペストリー・オブジェ 皿立て等、装飾的附属品不可	5月24日(火)～ 25日(水) 午後1時～7時
第3期	書 日本画	額装・軸装・裱装・衝立・屏風・帖・巻物・刻字 額装(ガラス・アクリル不可)	6月 7日(火)～ 8日(水) 午後1時～7時
第4期	写真 俳画	パネル張り・額装(ガラス・アクリル不可) 額装・軸装	6月21日(火)～ 22日(水) 午後1時～7時

※作品の額縁などにはつり下げ用のひもを付けてください。

問合せ先：マドカホール(担当：西山・中村) 電話：443-3800 月曜日休館

## nouvelle Fontaine vol.31

発行：岸和田文化事業協会  
 発行日：2011年3月25日

◆事務局  
 〒596-0073  
 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内  
 TEL/FAX 072-437-3801  
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・齒黒猛夫  
 藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

「ぬーべるふぉんてーぬ」平成22年度の最終号をお届けします。岸和田文化事業協会は、文化という宝物を、守り育て創り出す、そのお手伝いの活動をしています。それを広くお知らせするのがこの広報誌です。文化事業協会では、皆さんが創っている文化の芽を育て広めるお手伝いをしたいと願っています。

新しい年度も「こんなことしてるよ」「あんなこと知ってる？」などいろんな情報を事務局にお寄せいただければ嬉しいです。(紙野)